

常 新 報

常 新 報

刊 夕 日 二 十 月 一 十

發行所 常磐毎日新聞社
印刷所 常磐印刷局
電話 四二二番

常磐文藝

△公園の池邊

風もない、
弱い入陽が長い影を引いて
下り列車が恐しい
地響立て、
行き過ぎる
亦もとの静寂にかへつた
カサ
おや、木の葉が一枚
くるく／＼廻つて
膏を流した様な水面に落つ
弱い波紋が立つ。

静かな自然よ
淋しい秋の夕暮

小川郷産
御影石各種
玉石もあり
コンク
リート用の
砂利及びび砂
中山岩 採掘
土木請負業
石材商會
平町南町(火見下)
電話呼出二六七番

處方調劑
工業藥品
染料藥品
渡邊藥局
平町三丁目
渡邊政五郎
(郵便局向)

鳥肉

今度東京に於ても
有名な鳥料理人を
招きましたから一度
御試食を願ひます

末廣

平町 田町
電話四二二番

是非

粹で上品な履物を
御求めの際は
平町三丁目 電話一五六番
三井履物店

今秋の流行品

中折帽(二圓八十錢ヨリ)
サシ帽(四圓五十錢マデ)
烏打帽(九十錢ヨリ)
子供帽色々
最新式豊富ニ揃マシタ

磐城平町
鶴屋
電話百四十番

美味で評判の
遠藤パン
(平町前)

寄書

山色連天(二)

君民一致せんとする時上
意を疎隔し下情を閉塞する
者があるのと同ーです
以上の意味から考へますと
明年歌御會始の御題出色連
天の四文字は單に全國歌人
の詠進を促せらるゝのみな
らず亦爲政治家の頂門の一針
として下し給りたる御趣意
ではあるまいかと思はれま
す。爲政治家と申す迄もな
く上は二國の宰相より下は
一町村の首腦部にある人々
を指すのであります今此等
の人々のなす所を見まする

と必ず悉くとは申しませぬ
が其の多くは大にしては自
己所屬の一黨一派の爲め小
にしては一身の利慾の爲め
に自己の職務の社會の公僕
たる事を忘れ便宜の爲め與
へられたる法律權勢をさな
がら自己専有の如く振舞ひ
萬機公論に決すべき時世を
顧みずみだりに治者被法者
の區別をなして民を倚らし
むるべし知らしむる可から
ずとの專制的標語を金科玉
條となして一國一町村に望
むが故に下情上達せず上意
下通せず所謂山色天に連な
らざるの惡現象を生じ怨聲
巷に滿ち垢罵に溢れ終に
思想の惡化を來す様の不祥

御披露

從來當地方ニ銃砲製造修理所ナク皆
様ハ多額ノ費用ト御不自由トニ煩ハ
サレタ事ヲ遺憾ニ堪エマセンデシタ
ガ弊店ハハ素ノ御高庇ニ酬ヒ度ク存
ジ萬難ヲ排シ横濱、東京各銃器工場
カラ腕ノ勝レタル技術者ヲ招キ工場
ヲ新設致シマシテ各般獵銃、空氣銃
ノ新調及修理ノ御要求ニ應ジ價格ヲ
最モ低廉ニ日限確實、小修理等ハ御
待合ノ内ニ調製致シマスカラ何卒御
用命ノ程ヲ御願ヒ申上マヌ尙葉書カ
電話デオ問合セ次第御返事シマス

電話新設披露

電話二五八番

外科、内科
産婦人科
花柳病科
金成忠義
平町謙田町

吉田眼科醫院

定期見切品第二回大賣出し
十一月十五日より三日間
前回以上の新柄銘仙とモスリン以下
實用品を一切見安く陳列致して御座
いますからぜひ御来店被下様願います

を生ずるのであります。
今山色連天の御題を拜し
まして宮中におかせられる
深き思召しを拜察し奉り世
の爲政治家にして之を單に一
片の御歌題としてのみ看過
せず深く々々其裡面の御趣
意のあるところを奉載して
益々時務に勉勵し以て國家
の隆昌を計られんことを希
ふ次第であります。又一般
の國民として本年の御題
と云ひ明年の御題と云ひ斯
くも有がたき宮中の御趣意
を拜載しては益々報國の念
を厚ふし社會の根底を危ふ
する惡思想などにかぶるゝ
事なく至公至明一片の崖色
なき清高なる山色を一天の
上に連らせ君民一致の誠を
致す事を心懸ねばならぬの
であります。(完)

株買中値

電話に金融致し

銘格	拂込	時價
磐城銀行	五〇〇	五三、五
平銀行	五〇〇	六八、〇
磐越銀行	一一、五	一〇、五
磐城銀行	五〇〇	四三、〇
磐城銀行	三〇〇	二八、〇
田村銀行	一一、五	一一、五
四倉銀行	一七、五	一七、五
農工銀行	二〇〇	二五、〇
同新	一一、〇	一九、〇
百七銀行	五〇〇	五五、〇
同新	一一、五	一六、〇
七七銀行	一一、五	九、八
郡山電氣	五〇〇	四二、〇
同新	二五、〇	一九、五
只見川電	一一、五	七、五
植田水電	一一、五	一五、五
好間水電	一一、五	一三、〇
磐城製菓	一一、五	一五、〇
平信託	五〇〇	二五、〇
磐城製菓	一一、五	一一、五
植田物産	三〇〇	二六、〇
平製氷	二五、〇	一八、〇
好間軌道	五〇〇	三〇、〇
入山新	三三、五	一七、〇
小田炭礦	二五、〇	九、〇
磐城炭礦	五〇〇	四一、〇
同新	二二、五	一八、〇
磐城セメン	五〇〇	六二、五
同新	三三、〇	四二、〇
平運送	一一、五	八、〇

平町田町 電話三三三番
丸登株式会社
川添房二郎

一箇の種子から 千ヤヨテが繁茂した 名も型も珍奇な

泉村志賀氏試作の野菜

準人瓜(チャヨテ)は従来東北地方に於ては栽培困難にして栽培に成功せるもの殆んどなかつたが昨十二年前石城郡長佐瀬剛氏並びに大垣内技師が勸業視察のため鹿兒島地方に出張した折其の型の珍奇なるを農産にして蔬菜としての用途大なるを認め之が種子三箇を持参し二ヶ所に之れが試作を爲さしめた所其の二ヶ所は何れも失敗に歸したるも石城郡泉村志賀氏の試作したるものは目下見事に成育を遂げ僅かに一粒の種子に依り五十ヶ以上の果粒を着け棚の大きき約二間四方に繁茂し視察者の眼を驚かし居る

衝突して 頭部を割らる 傷を負て告訴

石城立憲新報主幹金子政道(三)は昨夜十時頃二丁目裏にて、石城郡好間村星義信(三)と衝突し下駄を以つて頭部に裂傷を負されたる爲め平署に告訴し目下取調中

警中寄宿舎 建築を延期

豫算緊縮で

本縣に於ける昨年度豫算は各方面に緊縮削減の大斧鋏を加へられたが其結果警城中學校明年度分工事の豫定であつた寄宿舎建築費三萬圓を之れを繰延べ十七年度迄延期される

折角の 紅葉を折る

識者は憤慨

石城郡川前村附近の紅葉は毎日平町や郡山其他各方面

新工風の 犯罪が増加

例年向寒の季節より歳末にかけて生活上の壓迫より來れるものらしく窃盜詐欺横領その他それ以外に原因する諸種の犯罪増加すると同時に純朴なる地方人を籠絡する新工風の犯罪はこの季節に於て最も多く行はるゝの

常磐片々

「コン晩お迎へに上りました」と材木町の有志連お稲荷さんを招く
其處に微笑を禁じ得ない純朴な人情美を痛感する
此愛すべき人達を確かに科學を超越した頭腦の持主である

勤儉訓令を 騰寫に附し

平町が配附

平町役場にては勤儉貯蓄奨励に關し香坂知事が曩に廳

で其の筋の取締警戒も一層嚴重を加へつゝあると
新妻醫院移轉 從來平町南町に開業中であつた新妻醫院は此度白銀町元北郷醫院跡に移轉し従前通り診療に従事すると

お稻荷さんを迎へに 羽織袴の區長を始め 手土産の油アゲを持つて

◇……地主の欣浄寺住職と敷地争へを造つて居る材木町の大杉稻荷神社は去る九日夜賽錢を掻凌がれた所から世話人達が寄り集つて「是れは當社にお稻荷さんの安住するムロが無い爲めの神罰であるからムロを造つてお迎へせねばならぬ」と相談が一決した
◇……處で種々伺へを立てて見ると結局同神社のお稻荷さんは長橋町尼子稻荷のムロにワビ住へをして居ると事が解り夫れでは早速お迎へに上らねばならぬと萬端手ぬかりなく種々の準備を整へた
◇……此處でお迎への旨恭々しく言上してから手土産の油アゲをムロの前に供へて三拜九拜し無事大杉神社へと引揚げた、今後は材木町にはお迎へ申したお稻荷さんの御利益で火難や盜難が必ずなくなるなどはお目出度い極みである



家庭欄

大根そぼろ煮

大根の皮をむき、長さ一寸幅五分角位の柏子木に切り鍋に大根を入れ、大根のかぶさる位の水を加へて柔らかに煮るまで煮、ほゞやはらくなつたところで、豚の挽き肉を(抱丁のみねでたいたものでもよい)加へて、箸でよく肉をほぐし、煮立たせ、上面に浮いたあくをすくるとり醤油と砂糖を加へて、味のしみるまでよく煮ます、煮えたら、鍋の中から大根丈けを他の器

丸龜の賣出し

平町二丁目中野呉服店にては十五日から三日間恵比壽講賣出しを開始し店内にモスリンを陳列して一般からごの柄がよいかを懸賞で募集すると

不平受付

演武場の開放 最近武道熱が非常に盛んになつて來ましたが平町には適當な場所がないので困ります、其處で平署内の演武場を一般に開放して武道吹かに便宜を與へては如何でせう先日此事である巡查に其旨を申して見ましたが「平署の演武場だから開放は至難だろ」との事でした、折角一般の者の據金に依つて出來た演武場ですから一つ署長殿の一老を煩はしたいと思ひます (野武士)

九星の 佛教の一致

十二日會講演
平十三 會は十三日午後六時半から平銀行樓にて栗山康高氏の「漢字上から見たる九星周易及び佛教の一致」と題する講演あると

磐城炭礦の 馬車軌道を 自動車に變更

自動車に變更

石城郡湯本町から小名濱町に通ずる磐城炭礦の馬車軌道は明治十四年小名濱から石炭を船積みにする爲め敷設されたものであるが今般巨費を投じて最新式自動車軌道に變更近く起工すると

湯本外二ヶ村 農産品評會

來月五日から

石城郡湯本町及磐崎内郷の二ヶ村聯合農産品評會は十二月五日から五日間湯本

貧困者に 同情の餘り

節約費を寄附

平町播磨小路磐城通信社内西丸川君は昨今各新聞に掲載される貧困者の悲惨な生活に同情の餘り夫等の救済の資の一部にとて節約日の折柄節約して蓄へた金貳圓の寄附金を平署に申込んで來た

募集

文藝其他投稿

代表出席したが尙ほ本日は赤坂溜池三會堂の全國町村長會議に列席する筈

赤十字へ寄附

平町

丹野榮三郎、柏原幸次郎の兩氏は各二百圓を赤十字福島支部に寄附した

平町人事

結婚

△胡麻澤 朝次三〇 同登藤ノシヨウ五